

SAARC（南アジア地域協力連合）について：首脳会談を中心に

平成 25 年 7 月 27 日
愛知国際法小研究会
水野光朗

1. 本報告の目的、何をどこまで明らかにするか

1. 地域機構としての SAARC を分析する。SAARC nations の分析（SAARC 加盟各国の個別分析）は行わない。
2. SAARC が「達成したこと」と「達成していないこと」を明確に区別して明らかにする。

2. 先行研究

「少なくとも南アジア地域においてはもちろんのこと、「南部アジア」全域においても、インドの中心性は明白である。」(258 ページ)

「(前略) このように南アジア地域においては圧倒的地位を誇るインドは、そもそも地域協力に前向きではなかった。国際関係の力学でいえば、多国間主義よりも 2 国間主義を貫くほうが有利だからである。」(同ページ)

「(前略) [SAARC] 憲章第 10 条が討議対象外としたのは、あくまでも「域内」の 2 国間係争的争点であって、政治や安全保障の議論自体を禁じたわけではない (後略)。」(260 ページ)

「(前略) SAARC は、平和・安全保障問題を正面から取り扱うことを避け、非政治領域での協力から始めようとした。にもかかわらず、域内超大国インドの「域内」への相対的関心の低さ、ならびにそのインドの関わる域内国家間対立が、そうした最低水準の域内協力をさえ停滞させてきたのである。」(264 ページ)

伊藤融、「地域協力の鍵を握るインド—SAARC, 環インド洋, BIMSTEC—」(山影進、広瀬崇子編、『世界政治叢書第 7 巻 南部アジア』、ミネルヴァ書房、2011 年)。

3. SAARC の概要

a) 基礎指標

設立年月日	1985 年 12 月 8 日
構成国	アフガニスタン (2005 年に加盟承認、2007 年から加盟)、バングラデシュ、ブータン、インド、モルジブ、ネパール、パキスタン、スリランカ
オブザーバ	オーストラリア、中国、EU、日本、イラン、モーリシャス、ミャンマー、韓国、アメリカ
面積	5130746 平方キロメートル
人口	16 億人 (2009 年推計値)
一人当たりの GDP	2779 ドル

b) 目的 (憲章による)

- 南アジア域内の人々の生活水準の向上、生活の質の向上
- 経済成長、社会発展、文化的発展の加速
- 相互信頼、相互理解の促進
- 経済、社会、文化、科学技術分野での相互協力の推進
- 域外の途上国との協力強化
- 共同利益 (common interest) を有する国際的分野での協力拡大
- 類似の国際的、地域的機関との協力
- 域内の平和維持 (maintain peace in the region)

c) 原則 (憲章による)

- 加盟国の主権、領域、政治的対等性 (political equality)、独立 (independence) の尊重
- 内政不干涉
- 相互利益のための協力
- 全ての決定は全会一致
- いかなる二国間問題も取り上げない。多国間問題のみを取り上げる。

4. SAARC の歩み

1980年5月 9	ジアウル・ラーマンバングラデシュ大統領、地域協力のための枠組みを提唱
1981年4月	コロンボで外務次官会議。農業、農村開発、通信、気象、公衆衛生の五分野で検討グループ (Study Group) を設置
1981年11月	カトマンズで外相会議。運輸、郵便、科学技術の三分野でも検討グループを設置。Study Group を Working Group と改称
1983年8月	七カ国の外相がニューデリーで、the Declaration on South Asian Regional Cooperation (SARC)、the Integrated Programme of Action (IPA) を採択
1985年12月7~8日	SAARC 憲章を採択、SAARC 成立

Sangeeta Thapliyal, 'Potential For Cooperation in South Asia: The Need for a Sub-Regional Approach' in *South Asian Survey*, Vol. 6, No. 1, 1991, p.52.

首脳会談については、巻末資料を参照。

5. SAARC が達成したもの

- a) 南アジア諸国が直面する諸課題について認識を共有
 貧困問題が最重要課題
 子ども、女性の社会的地位の向上、治安の維持も課題

b) 域外の諸課題について認識を共有
中東和平、とくにパレスチナ問題
イスラエルよりもパレスチナ寄り

c) SAPTA
域内自由貿易

6. SAARCが達成していないもの

a) テロ対策
一般論、抽象論であり、具体性を著しく欠く

b) CTBT、NPT への対応（核軍縮問題）

i)~ 第9回首脳会談（1997年）

CTBT交渉の早期妥結を呼びかけ（例えば、第5回首脳会談（1990年））

ii) 第10回首脳会談（1998年）~

「NPT、CTBTは核軍縮や核拡散防止に全く資するものではない。」（第10回首脳会談（1998年））

これ以降、NPT、CTBTへの言及はない

c) アフガニスタン問題

アフガニスタン和平問題に何らの見解・意見を表明することなく、第13回首脳会談（2005年）で加盟を承認し、アフガニスタンは第14回首脳会談（2007年）から正式に加盟している。アフガニスタン復興支援問題についても言及されたことはない。

7. 小括：「統合」か、「協力」か

a) 「統合」ではなく「協力」

SAARCはもともと例えば貧困対策や通商面での「協力」を目的としており、「統合」は初めから指向していない。

b) SAPTA

二重課税の回避、非関税障壁の撤廃、域内自由貿易を目指したもので、市場統合や通貨統合を目指したものではない。

c) EUとの対比

SAARCはもともと「協力」を意図しており、「統合」を目的としていない。したがって、「統合」を指向するEUとの対比は不可能かつ無意味である。

8. 参考資料（首脳会談一覧）

第1回	1985年12月7～8日	ダッカ
		<ol style="list-style-type: none"> 1. SAARC 憲章を採択 2. テロリズムと麻薬取引の問題についての研究グループを設置 3. GATTに関する閣僚レベル会合、女性の社会参加の促進に関する閣僚会合の設置を検討 4. SAARC 事務局の設置で合意
第2回	1986年11月16～17日	バンガロール
		<ol style="list-style-type: none"> 1. 国連憲章と非同盟運動の諸原則に厳格にしたがって、南アジア地域で平和、安定、進歩をすすめる意向を表明 2. 主権平等、領土的一体性、独立、武力の不行使、相互内政不干渉、紛争の平和的解決などの諸原則を尊重することを確認 3. SAARC の基本的な目標は、南アジアの人々の生活水準を向上させ、経済発展、社会計画、文化的発展を加速させることにあることを再確認 4. 社会経済問題により効率的に取り組むため、地域協力を推進することを確認 5. 研究者、芸術家、作家、専門職、実業家の相互交流、観光の拡大を促進 6. カトマンズに事務局を設置することで合意 7. 児童を国家の開発計画の中で最優先と位置づけ 8. テロリズムの阻止、撲滅のため、相互協力を行うことで合意 9. CTBT 交渉の早期妥結、署名、批准を呼びかけ

第3回	1987年11月2~4日	カトマンズ
		<ol style="list-style-type: none"> 1. 国連憲章を尊重することを確認 2. 国連が、普遍的な信頼、相互理解、平和の維持、地球規模での開発、一般的軍縮 (general disarmament) の達成に重要な役割を果たすことを確認 3. 非同盟運動、南南協力の諸原則を尊重することを確認 4. CTBT 交渉の早期妥結を強く呼びかけ 5. 洪水、干ばつ、地滑り、サイクロン、津波など自然災害の脅威に南アジアはさらされており、災害対策に共同して取り組むことで合意
第4回	1988年12月29~31日	イスラマバード
		<ol style="list-style-type: none"> 1. 南アジア諸国が、文化的、社会的、歴史的に相互に結びついていることを再認識 2. SAARC Agricultural Information Centre(SAIC) 設立で合意 3. SAARC Audio Visual Exchange (SAVE) Programme の開始で合意 4. 1988年8月12日に South Asian Food Security Reserve が始動したことを歓迎 5. SAARC Convention on Suppression of Terrorism が1988年8月22日に批准・発効したことを歓迎

第5回	1990年11月21~23日	マレ
		<ol style="list-style-type: none"> 1. SAARC事務局が、SAARCが刊行する報告書、研究、刊行物をECとASEANと交換することを開始 2. クウェートからイラク軍が直ちにかつ無条件に撤退するよう呼びかけ 3. 化学兵器の禁止とCTBT交渉の早期妥結を呼びかけ
第6回	1991年12月21日	コロンボ
		<ol style="list-style-type: none"> 1. 南北対話の促進、SAARC域内貿易の活性化を呼びかけ 2. パレスチナ問題の解決を呼びかけ、アパルトヘイトの撤廃を要求 3. 民主主義、人権、法の支配の重要性を再確認 4. 貧困の一扫がSAARCの最優先課題であることを確認。そのために、初等教育が重要であることを再認識 5. 2000年までに6~14歳のすべての児童に教育を受けさせることを目標として設定 6. テロリズムの拡散に重大な懸念を表明 7. 麻薬取引、国際的な武器の取引、テロ活動との間に関連性があることに重大な懸念を表明 8. South Asian Development Fund設立のための調査を開始

第7回	1993年4月10~11日	ダッカ <ol style="list-style-type: none"> 1. 貧困が南アジアにおいて主要な政治経済的課題になっていることから、各国は貧困対策に優先的に取り組むことで合意 2. 域内貿易を段階的に自由化する SAARC Preferential Trading Arrangement(SAPTA) に署名 3. 国の発展にとって、若者の果たす役割が極めて大きいことを考慮して、各国は若者の必要性 (needs) を満たすことを特に考慮 4. あらゆるテロリズムの活動、方法を犯罪として非難 5. ウルグアイラウンドの妥結が途上国にとって極めて重要であると確認
第8回	1995年5月2~4日	ニューデリー <ol style="list-style-type: none"> 1. 2002年までに貧困を一掃することを目標 2. 1995年を SAARC Year of Poverty Eradication とすることで合意 3. 1995年までに SAPTA を発効させることで合意 4. 2000年までに非識字を一掃する。1996年を SAARC Year of Literacy とすることで合意

第9回	1997年5月12~14日	マレ
		<ol style="list-style-type: none"> 1. SAPTA が 1995 年 12 月 7 日に発効したことを歓迎 2. 2001 年までに free trade area を設定し、貿易を自由化することで合意 3. 域内の投資を増加させる。そのため投資保護、二重課税の回避などの措置をとることで合意 4. 女性を南アジア地域の社会経済発展の中核として位置づけ 5. 2010 年までに児童労働の悪習を一掃 6. SAARC Terrorist Offences Monitoring Desk (STOMD)、SAARC Drug Offences Monitoring Desk (SDOMD) をコロンボに設置 7. 中東和平の進展を歓迎。PLO 指導下での自決権と、主権国家樹立権を含むパレスチナ人の権利回復を呼びかけ
第10回	1998年7月29~31日	コロンボ
		<ol style="list-style-type: none"> 1. 可能であれば、2002 年までに域内から貧困を撲滅することで合意 2. 人材の開発が、あらゆる貧困一掃計画にとって不可欠であることを確認 3. 気候変動に関する京都議定書を歓迎 4. 一部の SAARC 加盟国が条約当事国となっている NPT、CTBT は、核軍縮や核不拡散防止に全く資するものではない。SAARC は、適切な国際的な監視下で、核を廃絶し、地球的規模で核軍縮を推進する必要があることを表明

第11回	2002年1月4~6日	カトマンズ <ol style="list-style-type: none"> 1. 域内協力を推進し、South Asian Economic Union へとつなげていくという目標を共有 2. 政府機関、国際機関、民間、市民社会と常に連携をとりながら、直ちに貧困問題に取り組むことで合意 3. 中東において、暴力と流血が継続していること、および、和平プロセスに逆行する動きがあることに懸念を表明 4. PLO の指導の下、主権を持ったパレスチナ国家が樹立されることを支持
第12回	2004年1月4~6日	イスラマバード <ol style="list-style-type: none"> 1. SAFTA 枠組み合意 (the Framework Agreement) への署名は、SAFTA 実現に向けての重要な第一歩 2. 貧困対策は、あらゆる SAARC の活動にとって最優先事項 3. テロリズムの資金源に効果的に対応する the Additional Protocol to the SAARC Regional Convention on Combating Terrorism に各国が署名したことは、地域であらゆる形態のテロリズムを一掃するという決意の表れ 4. カトマンズに SAARC Information Centre を設置

第13回	2005年11月12~13日	ダッカ
		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2006~2015年を「SAARC 貧困一掃の十年」とする 2. SAARC Poverty Alleviation Fund (SPAF) を創設 3. 2006年1月1日にSAFTAが発効したことは、South Asian Economic Union への里程標 4. 2006年に行われる国連事務総長選出選挙について、アジアの人が次期事務総長になるべきであると全会一致で意見が一致 5. スリランカから事務総長の候補者を選出することで合意 6. アフガニスタンの新規加盟を承認 7. 中国と日本をオブザーバに加える
第14回	2007年4月3~4日	ニューデリー
		<ol style="list-style-type: none"> 1. アフガニスタンの SAARC 新規加盟を歓迎 2. 域内におけるヒトの移動を活発化し、域内結合 (regional connectivity) を強化 3. 貧困、感染症、自然災害、テロリズムに共同して対処 4. ドーハラウンド交渉の妥結を歓迎 5. 中国、日本、EU、韓国、アメリカ、イランのオブザーバ参加を歓迎

第15回	2008年8月2~3日	コロンボ
		<ol style="list-style-type: none"> 1. 南アジア地域域内のみならず、世界の他地域とのより強固な連携を重視 2. 原油価格の高騰が地域のエネルギー安全保障のみならず、地域の経済成長をも脅かしていると認識 3. 水力、太陽光、風力、バイオなど再生可能エネルギーの開発や、エネルギー効率化の技術開発にも力点 4. 地球規模の気候変動とそれに伴う海面上昇などに重大な懸念を表明 5. SAARC Development Fund 事務局をティンパーに設置 6. アフガニスタンの SAFTA 署名を歓迎 7. あらゆる形態のテロリストの暴力を強く非難 8. 平和、安定、安全をテロリズムが深刻に脅かしていることに重大な懸念を表明 9. 中国、イラン、日本、韓国、モーリシャス、アメリカ、EU、オーストラリア、ミャンマーのオブザーバ参加を歓迎

第16回	2010年4月28~29日	ティンブー
		<ol style="list-style-type: none"> 1. SAARC 創立 25 周年を祝福 2. 貧困問題に重点的に取り組む 3. 気候変動問題を第 16 回首脳会談の議題とすることを歓迎 4. ジェンダーの平等、女性のエンパワーメントを地域協力を通じて達成することに満足の意を表明 5. 「SAARC 児童の権利十年」(2001~ 2010 年)を検証し、フォローアップを実施 6. エネルギー分野での協力を拡大 7. UN Comprehensive Convention on International Terrorism の早期妥結に期待 8. オーストラリア、中国、イラン、日本、韓国、モーリシャス、ミャンマー、アメリカ、EU のオブザーバ参加を歓迎
第17回	2011年11月10~11日	アドゥ (モルジブ)
		<ol style="list-style-type: none"> 1. テロ、国境を越える組織犯罪、違法な麻薬取引、海賊行為の増加に懸念を表明 2. オーストラリア、中国、イラン、日本、韓国、モーリシャス、ミャンマー、アメリカ、EU のオブザーバ参加を歓迎 3. SAFTA を推し進め、非関税障壁の早期撤廃に尽力 4. バングラデシュ~ インド~ ネパール間で貨物列車の試験運行を実施 5. 域内の海賊問題への共同対処